

平和記念だより



◆編集・発行：高松市 人権啓発課 平和記念館
◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号
TEL: 087-833-2211 FAX: 087-833-2244

平和を語るつどい・ 憲法記念平和映画祭

5月27日（土）、たかまつミライエ1階多目的室にて、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第1部「平和を語るつどい」では、三谷地区遺族会の太田和代さんと林恵子さんを講師にお迎えし、約200名の参加者を前に、紙芝居を会場のスクリーンに投影して講演いただきました。紙芝居の題名は「戦争はいかん 人殺しやけん」で、26歳で真珠湾攻撃に加わった谷本政雄さん（太田さんの聞き取り当時98歳）が戦争への想いをこめて発した言葉が由来です。



講師：太田和代さん



講師：林恵子さん(左)



紙芝居は村人総出の出征見送りシーンから始まりました。三谷町(当時三谷村)の人々に召集令状が届き、遠い戦地へと父親や夫がかり出されてしまいます。戦地の悲惨な現実。一方、残された村人は、林飛行場建設の負担や空襲に耐える苦しい日々を重ねていました。そして現在の「みたに三郎池公園」に「慰霊碑」が建てられたところでお話を終えられ、最後に「戦争はいかん 人殺しやけん」と締めくくられました。

スクリーンに映し出される映像に合わせた三谷地区遺族会の太田和代さん・林恵子さんの交互のナレーションに、参加者全員が集中してじっと聞き入っていました。お二人の熱心なご講演、誠にありがとうございました。

第2部「憲法記念平和映画祭」では『母と暮せば』を上映しました。母親と亡き息子の心温まる交流に、すすり泣く声も聞かれながらの終演となりました。

平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭の感想

紙芝居とそれを映像化して見せたのは
すごくよかった。作られた三谷地区の皆
様の情熱に感謝します。

(50～60代 男性)

「母と暮せば」は涙なくしては見られ
ない。さすが山田洋次監督！家族の絆、
愛の表現満点でしょう。戦争はやっぱり
いかん！

(50～60代 女性)

映画は、この役者であればこそという
役柄と演技でした。また、このようなイ
ベントを開催してほしい。

(40～50代 男性)

映画を見て、長崎の深い悲しみを新た
に感じました。素晴らしい映画でした。

(50～60代 女性)

第1部・第2部セットで視聴すること
で、それぞれが、より深く心に残りまし
た。平和についてあらためて考え直す貴
重な時間になりました。

(40～50代 女性)

ずっと平和が続きますように。紙芝
居も続けてください。今日は出会えてよ
かったです。

(20～30代 女性)



第1部の講演は、戦中当時のことを聞
いてよくまとめられたものだと感心しま
した。昨今、国会で憲法9条について論
じられているが、複雑な気持ちでおりま
す。

(50～60代 男性)



広島原爆資料館での校外学習に行く
前に高松空襲の悲しみを知る機会となり
ました。紙芝居の絵も朗読も上手で良く
わかりました。

(小・中学生 女子)

「戦争体験談 遺族の思い」はよく調
べられていた内容で、今後いろいろな
ところで見せてもらえれば平和について考
える機会が増えると思います。

(50～60代 女性)

**アンケートにご協力いただき、
ありがとうございました。**

探しています！

高松市では、引き続き戦争中の生活の様子を伝える資料等を収集し
ています。特に、玩具、蓄音機、戦時中のことが記載された記念誌や
自分史等がございましたら、ご一報ください。皆さまからのご提供を
お待ちしております。

ご寄贈いただいた資料は『戦争遺品展』等で展示するほか、一部貸
し出しもいたします。詳細は高松市平和記念館までお問い合わせください。



夏の行事予定

高松空襲写真展

【日 時】7月1日（土）～10日（月）

【場 所】高松市平和記念館 映像学習室（たかまつミライエ5階）

【内 容】高松空襲の被災写真・パネル・絵画等の展示



高松市戦争遺品展

【日 時】7月20日（木）～26日（水）

【場 所】市民交流プラザ IKÔDE瓦町 展示コーナー（常磐町1-3-1 瓦町FLAG8階）

【内 容】高松空襲などに関する写真・パネル・当時の生活用品等の展示

今年のテーマは「銃後の生活（戦時中の日常）」です。出征する前に子にあてて書いた遺言状や戦時中家族あての軍事ゆうびんはがき、戦地へ卵を送る標語ポスターのほか、戦前および戦時中の世界地図を展示します。

市民の皆さまからの寄贈いただいた展示品には、幼児用ちゃんちゃんこの絵柄が戦車・戦闘機・南方絵地図であったり、足で蹴って遊ぶ木製スケーターには日の丸がついていたり、いかにも戦時下という象徴的なものがあります。今年もB29の残骸から作った盥（たらい）を展示していますので、ぜひご覧ください。



陣中慰問（玩具）



数とり器



子ども用茶碗
（高射砲絵柄）



木製スケーター

同時開催 ユニセフ・パネル展

【日 時】7月20日（木）～8月2日（水）

【場 所】市民交流プラザ IKÔDE瓦町 展示コーナー



平和首長会議ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相に関するポスター展

同時開催 高松市平和を願う市民団体協議会主催事業

高松戦災・原爆写真展

【日 時】7月27日（木）～8月2日（水）

【場 所】市民交流プラザ IKÔDE瓦町 展示コーナー

【内 容】原爆・高松空襲の惨状を伝えるパネル等の展示



戦時用語解説53

撃ちてし止まむ

昭和17年11月、大東亜戦争1周年を迎え戦争完遂の国民的決意を力強く表現し、戦場精神昂揚と生産増強、戦争生活の実践を徹底するために、大政翼賛会、東京日日新聞社、朝日新聞社が主催し、情報局が後援した標語を募集した。

「今日も決戦明日も決戦」「欲しがりません勝つまでは」などが入選した。このころ生活物資のほとんどが配給制になり、これらの標語は、その不足に対処するためのスローガンとして全国的に普及していった。「撃ちてし止まむ」は戦意高揚のための標語である。敵（米英など）を撃って撃って撃ちまくり、滅ぼしてしまえ、という意味である。この標語は当時、いろいろなところで見られ、口にされた。もとの言葉は「古事記」「日本書紀」に出てくる。

＊参考文献 「戦前・戦中用語ものしり物語」北村恒信

収蔵品紹介54 <<最近の収蔵品より>>

【戦時中のポスター】 提供者 正箱 信子様

当時、小学生だった提供者は、放課後、先生に呼ばれスパイのポスターを描くことを頼まれた。土台となる絵を描き、選んだ「油断すなスパイもみんな同じ顔」という標語をはりつけて、市の展覧会に出したが入賞できなかった。再度、先生から別のポスターを頼まれ、今度こそ失敗しないようにと、いろいろ工夫したのが、この卵のポスターである。

その頃、内地の人は卵1個も食べられない状態。すべて戦地へ送らなければならない。それほど戦争が激しくなっているとは、子ども心に分らなかった。8のつく日に卵を戦地に送ると決められていたので標語に「卵の日だ!! 出せ卵を前線へ」という標語を選んで描いた。さっそく先生がこのポスターを展覧会に出し、入賞した。先生にも母親にも喜ばれ、とてもうれしかったそうである。

時々出して見ては、あの頃の苦しさ不自由さが昨日の出来事のように思い出される、とのことである。



編集メモ

IKÔDE瓦町（瓦町FLAG8階）で7月20日から戦争遺品展開催に続いて、ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相に関するポスター展を開催します。ことடன்瓦町駅周辺へお越しの際には、ぜひ瓦町FLAG8階までお寄りください。皆様のご来場をお待ちしています。

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>